

月刊

ボランティアと、
地域活動の情報満載。

ボラナビ

7月号

無料

6月25日発行(第35号)

ボラナビとは

ボランティアナビゲーション(案内役)
を略した造語です。

今月の表紙は、イラストレーターを目指して勉強している東区の
桜井比呂美さん(29才)の作品です。「見てくれる人も、描いてい
る自分も楽しくなるような」イラストを心がけているそうです。
踊っている人の表情がいいですね。



特集

教えて!

ボランティア

第2回 「自分は必要とされているという感覚」

● NPO法人になりました ●

NPO法人になりました

ボラナビ倶楽部は、北海道庁に認証されたNPO法人（特定非営利活動法人）になりました。ボラナビ倶楽部は「地域活動を推進するために、市民活動団体（NPO）やボランティア団体が活動しやすく、また、住民がボランティアに参加したり、ボランティアのサービスを受けやすい環境作りに寄与すること」を目的としています。住民の視点からの地域活動に、これまで以上に努力していきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2001年5月24日

ボラナビ倶楽部 スタッフ一同

ボラナビ倶楽部の2000年度（2000年4月～2001年3月）決算報告

財産目録

（貸借対照表）2001年3月31日現在

	金額		金額
資産の部		負債の部	
現金・預金	959,679	借入金	2,809,503
未収入金	20,000	正味財産の部	
		当期収支差額	-1,829,824
資産合計	979,679	負債・正味財産合計	979,679

収支決算書

2000年4月1日～2001年3月31日

<収入の部>

科目	金額
事業収入	1,143,985
協賛金・助成金	5,008,585
雑収入	108,000
収入合計	6,260,570

<支出の部>

科目	金額
事業支出	6,470,420
人件費	960,000
一般管理費	659,970
支出合計	8,090,394

収支差額 -1,829,824



「げっ。今280万円も
借金あるの?!」

ボランティアさんを求めている側にとっても、ボランティアをする側にとっても、情報を手に入れられるこうしたシステムは必要ですね。企業、個人、行政にご協力いただいて、続けていきたいと思ひます。

みなさまからのお便り特集③



ボラナビ倶楽部では、みなさまからのお便りをお待ちしております。メール、FAX、お手紙などでどうぞお寄せください。よろしくお願いします。



4月号に掲載したシニアパソコン塾の小松さん

必要なボランティアメンバーに達しましたことをご連絡させていただきます。現在教えていただける方が5人となり、6月でひとつのグループを増やす予定で進めています。4月上旬から中旬に入り、ボランティア支援して下さる方々からの連絡が相次ぎ、改めて貴ボラナビ誌のメディアの力に驚いております。

教室で学習している高齢者の方々もボランティアの皆様のご指導を得て、学習が円滑に進み始めております。相互ボランティア活動を拡大して、今後増えると思定される働く高齢者のための技能修得のために夜の部を開設できるようにがんばりたいと思っています。また掲載をお願いすることになると思いますので、よろしくお願いします。



4月号に掲載の内田さん

重度障害者の介護を手伝ってくださいという項目でお世話になりました。たくさんの方からお電話をちょうだいし、その中から何人かの方を選ばせていただいて、いまお手伝いをさせていただいています。本当にありがとうございました。

ボラナビ
スタッフ
より

内田さんと、介護を受けている砂金さんからボラナビにご協賛もいただきました。ありがとうございました。



4月号に掲載した札幌チャレンジドさん

障害を持つ人を対象にしたパソコン教室のボランティア募集を新聞やボラナビに掲載してもらったり、HPで呼びかけたりしました。おかげさまで、8人のボランティアさんが見つかりました。そのうち4人はボラナビ4月号を見た人でした。この他、障害をもっている方で、私たちのパソコンセミナーを受講したいという方4人からもご連絡をいただきました。ありがとうございました。

一般の新聞に比べて、ボラナビに載せた反響は遅く、すぐにたくさん集まったわけではありませんでした。でも、今でも時々「ボラナビ見たのですが」と連絡をもらいます。また、長く続けてくださる方が多いです。





ボランティア



第2回 「自分は必要とされている
という感覚」

札幌ボランティア活動研究会の伊藤規久子さんに「ボランティア」についてお聞きする第二回。あなたは「必要とされている」感覚を味わっていますか？

「だれかの役に立てた!」「自分は活かされている」

昨年、東京で開かれた「広がれボランティアの輪」連絡会議のシンポジウムで、日本NPOセンター代表理事の星野昌子さんのお話を聞く機会がありました。たいへん感動的で、印象深いお話しでしたので、ちょっとおすそ分けしたいと思います。シンポジウムで星野さんはパネラーの一人だったのですが、開口一番「私の人生の大事な節目、節目、特に苦しい時にボランティア活動があった。」とおっしゃっていました。長い間ボランティア活動に関わってきた人の重みのある言葉でしたし、私自身、“ボランティア活動は自分の生き方そのもの”と感じているので、たいへん共感しました。

(星野さんは、1980年代、国際協力NPOの草分けである日本ボランティアセンター(JVC)をバンコクで立ち上げています。)星野さんの話の中で一番感動的だったのは、星野さんにとってのボランティア活動の原点というお話しでした。話は、太平洋戦争末期にさかのぼります。ボラナビの読者は学生さんが多いと聞いていますが、星野さんは大学で国際協力学を教えていらっしゃる方です。そんな古い話なんてと聞かず、ぜひ最後まで読んで下さい。(笑)

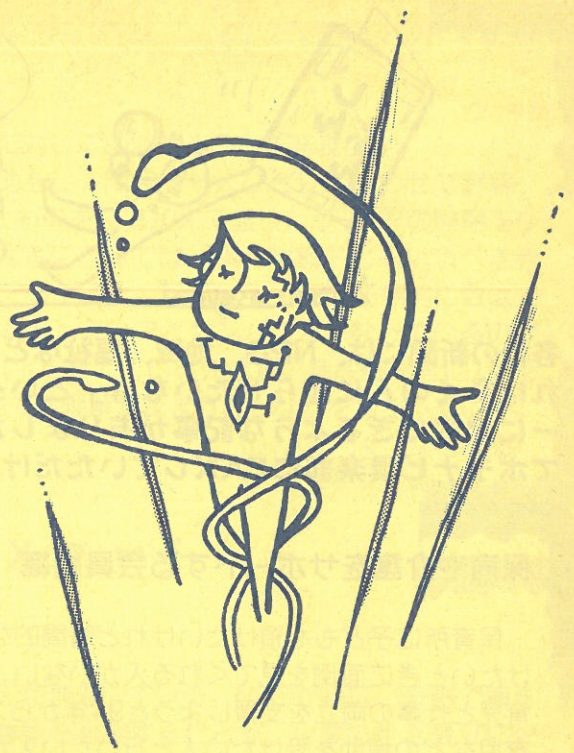
太平洋戦争末期、小学生だった星野さんは東京に住んでいたのですが、日ごとに空襲がひどくなり、山梨へ疎開させられました。(「疎開」という言葉を知らない若い方は、日本の歴史を勉強するせっかくのチャンスですから、だれかに聞いてみて下さい。)親元から離れ、東京から来たよそ者ということで地元の子どもにいじめられたりして、さびしい毎日を送っていたそうです。ところが、ある日、野良を歩いていた星野さんの耳に赤ちゃんの泣き声が聞こえてきました。どうしたんだろうと思い、泣き声のする方へ行ってみると、その頃の農家では、母親が野良仕事をしている間は、赤ちゃんは竹の籠のようなものに入れられて畑に置いておかれたのですが、その竹の籠の先が赤ちゃんの足の指に触れて、痛くて泣いているということがわかりました。星野さん、思わず、泣いていた赤ちゃんを抱き上げ、あやし始めました。そうすると、赤ちゃんは、星野さんの腕の中で泣き止みました。星野さん、きつところから「よかったなあ。」

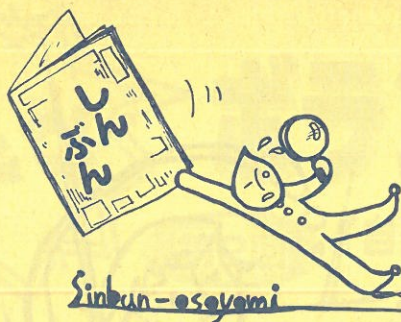
と感じたのでしょうか。その時の赤ちゃんの泣き声が星野さんの耳には「私はあなたを必要としているの。どうかここに来て私を助けてちょうだい。」そう聞こえたそうです。「今の日本の若い世代にはこの“だれかに必要とされている”という感覚が不足している。」と最後に付け加えていました。

国際協力の分野で活動している方と話しをすると、よくこんなことが話題にのびります。いわゆる貧しい国と考えられている発展途上国では、子ども達は小さなうちから家の中、場合によっては家の外で、働かなければなりません。日本人の感覚でい

くと、そんな小さな子どものうちから働かなければならないなんて「かわいそう」と思う人も多いでしょう。でも発展途上国の子どもたちの表情は実にイキイキとしています。（今、私の目の前にあるカレンダーにも子ども達のはじけるような笑い顔が写っています。）子ども達は、自分は家族を支える重要なメンバーである、そんな満足感を持って暮らしているように思えます。確かに日本の子どもは物質的には恵まれていて、すべてが整っていて働く必要などありません。でも、子ども達は本当に幸せだと感じているのかなあと思います。自分の存在感や生きる喜びが、私の子供時代に比べて希薄になっているような気がしてなりません。

私は、「なぜ、自分はボランティア活動をするのだろうか？」とよく自分に問いかけます。「いろいろな人との出会いがあるから」「多くのことを学べるから」「楽しいから」とか、いろいろな答えが出てきますが、「だれかの役に立ったと感じる場面がけっこうあって、それが嬉しいから。」というのも大きな理由かなと思います。自分たちが企画した講座で、ボランティア活動をしたいと思っている人にきっかけのものを提供できた時、グループのことで問題を抱えている人が問題解決のヒントを得ることができた時、私と私の仲間たちは、「活動していてよかった！」と、自分たちのこれまでの努力が報われたと感じます。たぶん、ボランティア活動は「自分は必要とされている」という感覚を取り戻す格好のチャンスなのでしょう。老人施設でボランティア活動をしている高校生が「あのおばあちゃんは私が来るのを毎週楽しみにしているの。」と楽しそうに話していたことがありました。彼女は、まさに「私は必要とされている」と感じていたのだと思います。多くの若い人にぜひボランティア活動を経験してもらい、幸せになってもらいたいとつくづく思います。





新聞

遅読み!

Sinbun-osoyomi

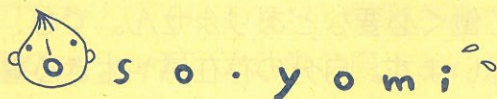
各社の新聞には、NPO、地域、福祉などなど興味深い情報がいっぱい。古くても「これは多くの人に知らせたいなあ」というような記事を集めています。このコーナーに掲載できるような記事がありましたら、新聞社名と掲載日が分かるようにしてボラナビ倶楽部にFAXしていただくと嬉しいです。

保育や介護をサポートする会員組織

保育所に子どもを預けたいけれど時間的な融通がきかなくて困る、急な用事で子どもを預けたいときに面倒を見てくれる人がいない、など、乳幼児を抱えた働く親の悩みに対応し、育児と仕事の両立を支援しようと94年からスタートした「ファミリーサポートセンター」。育児などの援助を受けたい人で行いたい人が会員となって、相互に助け合うというボランティア的な会員組織だ。

それぞれが事前にセンターに登録。援助を受けたいときに会員がセンターに連絡すると、時間などの条件があう会員を探して紹介してくれる。援助を受けた会員は時給600-800円を直接、援助してくれた人に払う。市区町村または公益法人などが設立し、運営費の2分の1を国が補助している。当初は育児援助が目的だったが、高齢者に対する簡易な介護援助も加わり、00年11月末現在で全国に80ヶ所以上あるという。

(00/12/26 公明新聞)



行革へ財務官僚奮闘

わたしたちは税金に見合った公共サービスを受けているだろうか。そんな疑問を出発点に、財務省の理財局計画官、村尾信尚さん(45)が、行政改革を目指すNPO「WHY NOT(どうして?やってみよう)」を旗揚げした。納税者の手で公共サービスの「注文書」を作り、政治家にぶつけて行政を動かそうというもの。休日を利用した活動になるが、霞ヶ関のキャリア官僚がNPOを通じて官庁を動かすことにもなる異例の試みだ。

改革のヒントは英国の市民憲章。「公立病院は予約患者を30分以上待たせない」など、行政が守らねばならない約束集にあたる。村尾さんは、納税者自身がアイデアを出し、本当に必要な公共サービスを実現しようとしている。首長選が近い市町村をモデル地区に選んで、年内に注文書作りを始め、各地に活動の輪を広げる構想。メンバーは霞ヶ関の官僚や地方自治体職員を中心に50人に増えた。

こうした活動は、財務省を中心にした国の予算配分システムが政官業のしがらみの中で十分機能していないことを、財務官僚が明かすことにもなる。「このままでは閉塞感が強まるばかり。組織の枠組みにとらわれず、内と外から財務省の背中を押ししたい」と村尾さん。

HP <http://webs.to/whynot/>

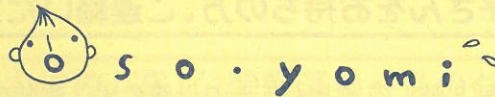
(01/03/28 朝日新聞)

全国で初めて介助犬育成に助成金

京都市は（01年）4月1日から、介助犬の育成に対して助成することを発表した。

介助犬は、手足が自由に動かない人の動作介助をし、障害者一人ひとりに合わせて訓練、指導された犬。車椅子を引っ張ったり、落としたものを口に加えて渡したり、ドアの開閉をしたり、受話器を渡したりするなど、利用する障害者にとっては「体の一部」ともいうべき存在となる。しかし、全国で800頭以上いる盲導犬と比べると、全国に数十頭と圧倒的に数は少ない。1頭あたり150～300万もかかる育成費をボランティアとカンパでまかなっているのが現状。京都市は、全国で活躍する介助犬の半分以上を育てている先進地。育成関係者に1頭あたり30万円を上限に支出することで、介助犬に対する理解が深まることなどをねらっている。

(01/02/14 公明新聞)



企業、NPOに急接近

企業がNPOと協力して事業をする「協業」時代が到来している。NPOが幅広い分野で根を張り、その力や専門性、消費者の声を代弁する機能を利用することが、企業の生き残りに欠かせなくなってきたからだ。

総合研究大学院大学教授の出口正之氏「地球環境や安全問題への対応が経営評価に直結するなど、企業を取り巻く環境が大きく変わる中で、NPOは『社会との接点』として企業活動に必要な存在になりつつある。企業とNPOの連携は、従来の『支援する・される』関係から『相互のパートナー』としての第2段階に進化したといえる。ただ、財政面でもマネジメントでも、企業に比べ弱い組織のNPOが、企業と対等に自らの志を反映できる体制をつくるためには、税制をはじめ制度的な裏づけが必要だろう」。

企業とNPOの連携の例（NPO法人格の有無は問わない）

- ・東京電力；太陽光発電の普及を目指し「自然エネルギー推進市民フォーラム」（東京）と連携。
- ・ダイエー；介助犬を連れたまま店内で買い物がしやすくなるように「日本介助犬アカデミー」（東京）などと共同作業。
- ・朝日ライフアセットマネジメント；社会的評価が高い企業に投資する投信作りの作業の一部を「パブリックリソースセンター」（東京）に委託。
- ・ホンダ；「沙漠植林ボランティア協会」（岩手県衣川村）の中国・内モンゴルでの植林活動を支援。
- ・日産自動車；大学生のNPOでのインターンシップを支援。
- ・トヨタ自動車；芸術活動による障害者の自立支援を「エイブル・アート・ジャパン」（東京）と展開。
- ・デンソー；タイで電動車いすを寄付する「アジア車いす交流センター」（愛知県刈谷市）を設立。
- ・アイシン精機；NPO支援のための基金を設立・運用
- ・リコー；沼地の浄化活動を「ソフトエネルギー研究会」（千葉県柏市）と展開。
- ・東京商工会議所；高齢者関連市場の開拓をねらって「生活・福祉環境づくり21」（東京）を設立。

(01/04/13 朝日新聞)



ボラナビでは、今、9月号に掲載する情報を集めています。7月25日までに、最終ページにあるボラナビの宛先までお寄せください。

イラスト：タケダミヲ

常時

難聴のお子さんをお持ちの方、ご連絡いただけませんか？

●**内容**：私は難聴（手帳1種2級）の子ども二人の母親です。難聴の小中学生の子どもをお持ちの家族の方、一緒に活動しませんか。平成13年度から、全国20の聾（ろう）学校に通級担当教員が配置されました。でも北海道ではまだ実現していません。北海道の聾学校に通級制度を誕生させるには、協力してくださる10人以上の聾学校に通う子どもさんの名前が必要です。それを持って道庁に提言します。耳にハンディがある子どもたちが、それぞれ適切な教育を選択でき、いきいきと豊かに暮らせる日常と一緒に願っていきませんか。ご連絡をお待ちしています。

●**連絡先**：070-6316-6254（ぶどうの木）

●**備考**：ボラナビ倶楽部には私の名前や住所をお伝えしていますが、誌面では伏せさせていただきます。

常時

日常生活のお手伝いをしてくださる方 募集

●**内容**：斉藤マツヨさんというおばあさん（90才）の日常生活のお手伝いをしてくださる方を募集しています。ボラナビ4月号にも掲載し、数名の方からお問い合わせをいただきました。そのうち1名の方がすでにお手伝いを始めてくださっていますが、まだ人数が不足しています。ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。斉藤さんは年齢の割にしっかりしていて、寝たきりでもありませんが、高齢のため天候などによって体調が左右され、1人で家にいるのは大変不安だとおっしゃっています。ボランティアの内容は、買物や食事の片付けなどが中心で、基本的には家にいていただけるだけで結構です。決して難しいものではありません。よろしく願いいたします。

●**日時**：①17:00までの日中数時間 ②17:00～21:00まで（食事当番）
③21:00～翌朝10:00（泊まり当番）*多少の調整は可能です。

●**場所**：豊平区月寒東1条10丁目

●**連絡先**：TEL 011-853-4764（17:00以降にお願いします）

※斉藤さんのご自宅ですが、募集に関する対応はボランティアが行います。

日によっては対応できない場合があります。ご了承ください。

●**備考**：月1回でも不定期でも構いません。また、交通費はお支払いします。

常時

オカリナと一緒に歌いませんか

●**内容**：「オカリナ愛好会」は、オカリナの演奏でのボランティアを中心に活動をしているグループです。これまで老人ホーム、幼稚園や学校、ボランティアサークルなどのイベントやパーティに伺い、童謡や唱歌を演奏してきました。参加されている皆さんにオカリナと一緒に歌っていただき、楽しいひと時を過ごしています。皆さんも私たちのオカリナと一緒に歌ってみませんか？高齢者施設や病院、学校の催しなどにも伺います。ぜひご連絡ください。また、初心者を対象にした練習会を西区で開催いたします（毎週水曜日 10:00～12:00）。ご興味のある方はお問い合わせください。

●**問い合わせ先**：オカリナ愛好会 TEL/FAX 011-662-4177（佐藤）

7/13

さっぽろ自由学校「遊」公開講演会～性のグラデーション～

●**内容**：さっぽろ自由学校「遊」では、9月まで数回に分けて自分の「性」を生きようとしている様々な人たちにお話を伺う連続講座を開催いたします。7月13日には、インターセックス（外性器の形から男女の性判別がつかない、男でも女でもない性）の当事者である橋本秀雄氏に、子どもたちへの医療の対応と福祉的支援について、また多様な身体の「性」についてお話を伺います。参加された皆さんが、常識を剥ぎ取っていく中で他者への想像力と共感を高め、また自分らしい「性」を選び取っていくことに積極的な意味を見出せることを期待しています。多くの方のご参加をお待ちしています。

●**日時**：7月13日（金）18:00 開場 18:30 開演

●**場所**：かでの2・7（中央区北2条西7丁目）

●**参加費**：1000円

●**その他**：9月までの講座予定は以下のとおりとなっています。詳細はお問い合わせください。

・7月27日（金）「セクシュアルマイノリティってなあに？」

・8月10日（金）「性の常識はどのようにつくられたのか？」

・8月24日（金）「性と家族のあり方を見つめ直す」

・9月7日（金）「男の性から個の性へ～男らしさを捨てちゃおう～」

●**問い合わせ先**：さっぽろ自由学校「遊」 TEL 011-252-6752 FAX 011-252-6751

常時

外出介助ボランティア 募集

●**内容**：全盲の男性の鍼灸院から自宅までの介助をしてくださる方を募集しています。介助といっても、ヒモを片方持ってくださいだけで結構です。近くの方で長く続けてくださる方を希望します。なお、1回につき700円のお礼をさせていただきます。よろしく願いいたします。

●**日時**：火・水・木曜日 9:30（自宅から鍼灸院）月～金曜日 19:30（鍼灸院から自宅）

●**場所**：（自宅）西区二十四軒2条4丁目7-28 二十四軒ハイツ401号室
（鍼灸院）西区二十四軒1条4丁目2-23 加森ビル8-2F

●**連絡先**：TEL 011-631-8306（石田）

常時**施設でのボランティア 募集**

●**内容**：介護老人保健施設「北野の四季」には、介護認定を受けている入所者およびデイケア利用者の方がいらっしゃいます。このたび、入所者や利用者さんの趣味活動をお手伝いして下さる方、お話し相手、またシーツ交換のお手伝いなど、施設に来て入所者・利用者の方と関わりをもってくださいボランティアさんを募集することになりました。定期的・不定期でも構いません。性別・経験も問いません。まずはご連絡ください。

●**日時**：応相談

●**場所**：清田区北野1条2丁目 11-50

●**連絡先**：介護老人保健施設「北野の四季」

TEL 011-881-2255 FAX 011-881-1050

**常時****ボランティア365(1年間ボランティア)参加者募集**

●**内容**：(社)日本青年奉仕協会では、1979年より青年のための長期ボランティア活動プログラム「ボランティア365」を実施しており、現在、第24期の参加者を募集しています。この計画の目的は、さまざまな社会課題に取り組む団体の活動を支援し、その解決のために青年の持てる力を発揮してもらうこと。そしてその活動を通して得られる青年の学びにあります。皆さんも「支援」と「学び」のプログラムに参加してみませんか？

●**活動期間**：2002年4月上旬～2003年3月上旬

●**活動先**：文化・地域振興・福祉・教育などの分野で活躍している団体・機関・自治体など

●**参加要件**：① 18～30歳の青年 ②参加期間中を通して現住所を離れられる人

③未知の場所で活動する意欲と情熱がある人

●**参加費用**：参加期間中の経費負担はありません。住居、基本的な生活用品は活動先から提供され、月に一定額の生活費が支給されます。

●**応募方法**：1200円(120円×10枚)分の切手と「住所・氏名・年齢・職業・電話番号・ボランティア365を知ったきっかけ」をお書き添えの上、下記まで資料請求をしてください。ご応募いただいた後、書類および面接選考があります。

●**応募締め切り**：前期7月31日(火)、後期11月30日(金)ともに消印有効

●**問い合わせ・資料請求先**：(社)日本青年奉仕協会(JYVA)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL 03-3460-0211 FAX 03-3460-0386

●**備考**：北海道説明会を下記のとおり行います。

<日時>7月1日(日) 13:30～16:00

<会場>札幌市生涯学習センター ちえりあ 3F 研修室 2

(西区宮の沢1条1丁目1-10 地下鉄東西線「宮の沢駅」下車 徒歩5分)

常時

学童保育のボランティアさん 募集

●**内容**：共同学童保育「ひまわり子どもクラブ」では、放課後や学校休業日（夏休み等）に元気いっぱい子ども達と一緒に遊んでくださるボランティアさんを募集しています。外遊びでは、野球、サッカー、おにごっこなどをし、中遊びでは、オセロ、トランプ、伝承遊び（コマなど）をして遊んでいます。積極的に子ども達と遊んでくださる大学生以上の方、大歓迎です。少しでも興味のある方はぜひご連絡ください。

●**日時**：月～土曜日 9:00～17:00 で都合の良い時間

●**場所**：東区北 28 条東 13 丁目 3-16

●**連絡先**：ひまわり子どもクラブ TEL/FAX 011-722-4660

7/1

第8回生命尊重を考える講演会

●**内容**：札幌いのちの懇談会は、青少年の犯罪や自殺、若い父母による乳幼児虐待など生命尊重の良心が問われる今日にあって、いのちは授かり物、生命尊重はお腹の赤ちゃんからと考え、いのちにやさしい街づくりを願って活動を続けているボランティア団体です。毎年「いのち」をテーマに講演会を開催しており、8回目を迎える今年は、身体障害を乗り越え、いのちのボランティアの先頭に立っておられる野尻千穂子氏をお迎えいたします。多くの方々々と感動を共有し、いのちの尊さと生きる勇気を学びたいと願っています。

<講師：野尻千穂子氏 紹介> 11歳の時脊椎の病気で胸から下が麻痺、車イスの生活に。同じく障害のあるご主人と結婚され、周りの反対にあいながらも奇跡的に自然分娩で一女を出産。いのちと真っ正面から向き合い、出産、子育て、ボランティア活動にも取り組み、現在学校や福祉関係で講演活動を行いながら、いのちの感動と生きる勇気を呼び起こしている。

●**日時**：7月1日（日）13:30～15:45 開場 13:00

●**場所**：かでの2・7大会議室（中央区北2条西7丁目）

●**料金**：一般前売 1200円（当日 1500円）、中高生 500円

※4プラ・道新プレイガイドでも取り扱い中

●**その他**：定員は300名。託児も行っています（無料・要予約・先着20名）。

●**問い合わせ先**：TEL/FAX 011-763-5814（佐久間）011-615-6031（鈴木）

全世界の障害者が連帯する第6
回障害者インターナショナル(DPI)
世界会議札幌大会が、2002年10月
15日から18日に札幌市「きたえる」
で開かれます。

だれもが元気に暮らせる優しい街
づくりを、北海道新聞は積極的に
応援します。

道新は応援します、
DPI世界大会。

道新は、北海道の元気を応援します。
北海道新聞
<http://www.hokkaido-np.co.jp/>

道新は、北海道の元気を応援します。
北海道新聞
<http://www.hokkaido-np.co.jp/>

常時**病院・老人保健施設ボランティア ボ集**

●**内容**：北海道社会保険病院では、平成11年秋より病院ボランティアを実施しております。その実施にあたってはその年のボラナビ11月号にボ集記事を掲載し、多くの方からお問い合わせをいただきました。実際の活動に結びついた方もいらっしゃいます。このたび、新病棟の落成および介護老人保健施設「サンビュー中の島」のオープンに伴い、再度ボランティアをボ集することになりました。通院や入院中の患者さんが安心して療養を受けられるように、院内の案内、散歩、図書の整理、また、施設利用の方の話し相手や行事、レクリエーションなどに参加してくださる方、ぜひご連絡ください。ボランティアさんには「できることを、できる範囲で、できる時間だけ」を基本をお願いしていきたくて思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

●**場所**：北海道社会保険病院および介護老人保健施設「サンビュー中の島」

(豊平区中の島1条8丁目3-18 地下鉄中の島駅から市バス乗り換え 社会保険病院前 下車)

●**連絡先**：TEL 011-831-5151 (内線 9226・9345) 平日 17:00 まで

**7/26~
8/24****障害をもつ中学生と一緒に遊んでください**

●**内容**：北栄中学校に通う中学生数人と、夏休みの数日間、プールや公園などで遊んでくださる方をボ集しています。対象は、主に知的障害と自閉的傾向のある生徒たちです。謝礼はありませんが、交通費、その他活動に必要な実費はお支払いします。また、ボランティア保険は自己負担をお願いいたします。

●**日時**：7月26日・27日・8月3日・22日・24日 ※このうち1日でも結構です。また、時間はその日によって違いますので、詳しくはご連絡ください。

●**連絡先**：TEL&FAX 011-783-9887 (安立) E-Mail：nadad@be.mbn.or.jp

**8/2~
8/8****ビデオ・写真撮影ボランティア ボ集**

●**内容**：サマースクール「めだかのがっこう」は、今年から各地区4ヶ所に分かれて開催することになりました。その中の南・中央地区では、今年も子供たちが楽しい夏休みの思い出や豊かな体験ができますようにと願いを込めて、親や同じ地域に住む人達が協力し合い「めだかのがっこう」を開催します。サマースクールでは、音楽会や遠足で楽しい時間を過ごしますが、その期間中、子供たちの笑顔をビデオ・写真に撮ってくださるボランティアさんをボ集しています。ご協力をお願いいたします。

●**期間**：8月2日(木)・3日(金)・6日(月)・7日(火)・8日(水)

9:00～15:00 ※ご都合のつく日だけでも結構です。

●**場所**：真駒内養護学校(南区真駒内東町2丁目2-1)

(8月7日は遠足のため、滝野すずらん丘陵公園を予定しています)

●**連絡先**：「めだかのがっこう2001南・中央地区」TEL/FAX 011-584-9661 (石川)

**7月のボラナビの集いの
ゲストスピーカーです。**

常時**犬・ネコの里親探し、動物達のケアを手伝って下さい**

●**内容**：私達は東京に本部を置くNPO法人アニマルライツセンター（ARC）の北海道支部です。ARCは、「動物実験や非倫理的殺害、虐待、遺棄をなくし、動物たちと穏やかに共存できる社会を！」を趣旨とし、雲仙普賢岳、阪神大震災、有珠山、三宅島噴火などの自然災害時にも、現地での直接行動で被災動物の救済などを行ってきました。動物達の生きる権利を多くの人達に理解してもらえるよう今も日々奮闘中です。こんな私たちと一緒に活動してみませんか？活動の内容は、犬やネコの里親探しや動物達のケア、飼育小屋の掃除などもあります。動物達のために何かしてあげたいという方、一緒に頑張りませんか？

●**連絡先**：NPO法人アニマルライツセンター北海道支部 TEL/FAX 011-783-8445（池田）
携帯 090-8271-1147（中村） E-Mail：arc_t@muc.biglobe.ne.jp
ホームページ：http://www02.so-net.ne.jp/~arcj/index.htm

**常時****ユースホステル子ども体験プログラム ボランティアリーダー 募集**

●**内容**：ユースホステルは、どなたでもお泊りいただける宿泊施設ですが、もともとは青少年が未知の世界をたずね、見聞を広げるためのベースとなる宿泊施設です。支笏湖ユースホステルでは、小学校3～6年生を対象に月1～2回、1泊2日の体験プログラムを実施しています。ウォーキングやカヌー、木の葉などを使ってのクラフト作り、うどん打ちなどの簡単な食べ物作り等が体験プログラムの内容です。8月には6泊7日の長いプログラムを予定しており、子ども達と一緒に体験しながら、子ども達のお世話をしてくださるボランティアを募集しています。また、裏方としてプログラムをサポートしてくださる方も募集しています。関心のある方はぜひご連絡ください。

●**日時**：8月6日（月）～12日（日）（6泊7日）「思いっきり夏休み支笏湖7days」

8月20日（月）～26日（日）（6泊7日）「北の夏休み子ども体験プログラム7days」

*この他、月1～2回（土曜日 16:00頃～日曜日 16:00頃）定期活動を行っています。

●**活動場所**：支笏湖ユースホステルおよび支笏湖周辺（JR千歳駅または苫小牧駅からバスで40分）

※子ども達を千歳駅まで送迎しているバスをボランティアリーダーの方も利用することができます。

●**問い合わせ先**：支笏湖ユースホステル TEL 0123-25-2311 FAX 0123-25-2312

E-mail：shikotsuko@jyh.gr.jp

●**備考**：性別・経験は問いませんが、高校生から25歳くらいまでの方に限らせていただきます。なお、プログラムにかかわる費用（宿泊費、食費、材料費等）は、主催者が負担いたします。

短期**「がんばりキャンプ」のボランティア 募集**

●**内容**：ハンディキャップのある子どもたち（6～26歳）が、2泊3日、家族と離れて見知らぬ人たちと過ごします。ニセコの大自然の中で思いっきり体を動かして欲しい、他の人たちと関わり触れ合って、より豊かになって欲しい。そんな願いを込めた「がんばりキャンプ」です。登山やリズム体操、アスレチックやボール遊びなど一人一人の個性に合わせてゆっくり見守る3日間、一緒にお世話をしてくださる方を募集しています。子どもたちがとても楽しみにしているこのキャンプ、多くの方のお手伝いをお待ちしています。

●**日程**：第1回7月25日～27日、第2回7月30日～8月1日、第3回8月2日～4日、
第4回8月6日～8日、第5回8月9日～11日

●**場所**：ニセコ町 ペンションがんばり（ニセコ町字ニセコ 387-6）

●**費用**：無料（ニセコへ来てからの費用は一切かかりません）

●**問い合わせ**：NPO 法人（申請中）ニセコがんばり

TEL 0136-58-2511 FAX 0136-58-2517（伊藤のり子）

**5月の集い**

お花見日和の日曜の午後、「ちえりあ」で5月の集いは行われました。今月のゲストスピーカーとして来ていただいたのは、小樽BBS会の斎藤友貴彦さんです。

BBSとは、Big Brothers and Sisters Movementの頭文字をとったものです。非行におちいりそうな、また非行から立ち直ろうとしている少年少女とともだちになって、話し相手となったり相談に乗ったりしながら立ち直りを援助していく運動を行っています。全国に組織があり、保護観察所や家庭裁判所等から依頼のあった少年達に、兄姉のように接しています。電話による少年達の相談もっており、現在もボランティアを募集中です。連絡先はTEL0134-22-5904（小樽市青少年センター）またはTEL070-5602-7249（斎藤さん）です。

集いでは、この他スタッフより障害者について日頃思うことのコーナーがあり、今回は「手すりはどうして右側にしかないのか？」といった健常者の見落としがちな視点が話題となりました。フリートークでは、高校生や主婦の方など、初めての参加者からボランティアへの関心度やボランティアをすることの不安など直接聞くことが出来ました。集いへの参加が少しでも皆さんのボランティア活動の手助けとなるよう、これから頑張っていきたいです。

（ボラナビスタッフ 大坂 紫）

ボラナビの主な配付先

ボラナビは毎月25日に発行し、各所で無料配布しています。
(問い合わせの多い大通り、札幌駅近辺のいくつかには住所も書いています)

●札幌市内と近郊の大学・専門学校●

大谷短期大学、札幌医科大学(本屋)、北海道浅井学園大学、札幌学院大学(江別BBS)、札幌国際大学、天使女子短期大学、藤女子大学、北海道文教短期大学、北星学園大学、北海学園大学、北海道医療大学、札幌福祉専門学校、北海道芸術デザイン専門学校、北海道医薬専門学校、北海道大学、北海道教育大学、小樽商科大学、札幌大学、酪農学園大学、武蔵女子短大

●スーパー●

北雄ラッキー、スーパーJOY、札幌東急ストア、ホクレンショップ・ホクレンディスカウントショップ、コープさっぽろ、SEIYU、マイカルSATY、ラルズ系スーパー、マックスバリュ<以上のスーパーの市内全店>、札幌フードセンター(平岸、元町、登川、北、新道、篠路、豊平、琴似、菊水、森林公園、カスタム一東苗穂、月寒中央)

●書店●

文教堂 本の店 岩本 市内全店、紀伊国屋書店 市内全店と小樽店、くすみ書房、ダイヤ書房(北25東8、発寒14条3丁目、川沿1条1丁目)、ピヴォックセンター(南2西4ピヴォ6階)

●レンタルビデオ店●

TOWA・フォレストージ 市内全店、TSUTAYA(北14東6、北3西28)

●CD店●

VIRGIN MEGA STORE(南1西3ラ・ガレリア地下1階)

●映画館●

松竹、SY遊楽、札幌劇場、シアターキノ、東宝公衆、東映劇場

●銀行●

札幌信用金庫 札幌市内と近郊全店、北海道銀行 札幌市内と近郊全店

●飲食店●

可否茶館 市内7店舗、サンローゼ、サッポロ珈琲館

●その他●

北海道環境サポートセンター(北7西5)、朝日カルチャーセンター(北2西1)、札幌国際プラザ(北1西3)、北海道電力(株) 市内全営業窓口、琴似日食コンカリーニョ、道新文化センター(大通り西3)、ライラックパセオ、JTインフォプラザ(南2西3)、さっぽろ村コミュニティ工房、JR琴似駅、JR新札幌駅

●市内公的施設●

70カ所(区役所、図書館、地区センター、市民活動プラザなどに配布をお願いしています)

7月のボラナビの集い

7/18 18:30~20:30
(水) 初心者歓迎!

7月の集いのゲストは、12ページの「めだかのがっこう2001」さんです。

場所：環境サポートセンター
北区北7西5札幌千代田ビル1階
TEL011-707-9025

会費：300円。

..... 予定 8月は26日(日) 13:30~15:30

..... 場所：環境サポートセンター
..... 北区北7西5札幌千代田ビル1階
..... TEL011-707-9025

ボラナビでは、表紙の絵を募集しています。

応募の方は、ボラナビ倶楽部へB5以上の紙へ描いた絵を郵送してください。紙は折らないようにお願いします。採用の方には、こちらからご連絡いたします。

ボラナビの集い唯一の、十代スタッフです。高校生の時にスタッフとなり半年ほど経ちました。失敗ばかりですが、楽しくやっています。大学では介護福祉について学んでいます。介護福祉士の資格取得のためには必修科目が多く、忙しい毎日です。大学は楽しいのですが、講義で取ったノートを整理していなかったために、家で勉強をすることが出来ずに困っています。テストが近いのに。誰かノート整理のボランティアしませんか？(笑)



(宮崎 理)

読者のみなさまへ

- ・「月刊ボラナビ」を定期的にほしい方、お申し込みください。

定期購読料は、半年1500円で、毎月1部ずつお送りします。2~30部ずつ(札幌市外は12部まで)ご希望の場合は、半年で3000円です。この金額は、印刷、郵送費に足りていませんので、特に企業さんがお申し込みの際は協賛のご検討をお願いします。また、これまでの「月刊ボラナビ」をほしい方は、ご希望の号をお知らせの上、郵送費とカンパをお願いします。振込みの際には、お名前、住所、希望部数、FAX番号(もしくはTELかメールアドレス)をボラナビ倶楽部にお知らせください(口座番号は最終ページにあります)。

- ・「月刊ボラナビ」に広告を載せませんか？

広告掲載は、縦4センチ横13センチで6万円です(版下製作もできます)。ボラナビ倶楽部への協賛の意味が強く、金額は若干高めに設定させていただいています。企業の方には負担をおかけしますが、広告の数が限られるため目立ちます!掲載希望の際は、ご連絡ください。

※「月刊ボラナビ」は、毎月25日に、2万5千部発行しているボランティアと地域活動の情報誌です。札幌市内の大学、書店、スーパー、JR駅、区役所や社会福祉協議会を中心に350カ所無料で配布しています。

今月協賛して下さった方々 (マميم順)

- ・ マイクロソフト株式会社 様
- ・ 株式会社 TAGANO 様
- ・ 真屋 幹雄 様
- ・ 株式会社土屋ホーム 様
- ・ 株式会社リクルート北海道じゃらん 様
- ・ DoCoMo エンジニアリング北海道株式会社 様
- ・ 青木 繁明 様
- ・ DoCoMo サービス北海道株式会社 様
- ・ 赤帽北海道事業本部 様
- ・ ドコモモバイル北海道株式会社 様
- ・ 株式会社 NTTドコモ北海道 様
- ・ 中道リース株式会社 様
- ・ 大友福祉振興財団 様
- ・ 幡本印刷株式会社 様
- ・ 株式会社コスモメディア(女性情報誌 poroco) 様
- ・ ほくでんぼるねっと 様
- ・ 有限会社こみゆねっとシナプス 様
- ・ (北海道電力内ボランティアサークル)
- ・ 斎藤 宏二郎 様
- ・ 北雄ラッキー株式会社 様
- ・ 札幌信用金庫 様
- ・ 株式会社ホクレン商事 様
- ・ 札幌通運労働組合 様
- ・ 株式会社北海道アルバイト情報社 様
- ・ 自主自立まちづくりネットワーク SOS 様
- ・ 北海道紙商事株式会社 様
- ・ 城宝 和茂 様
- ・ 北海道振興株式会社 様
- ・ 進藤 芳彦 様
- ・ 北海道新聞社 様
- ・ 生活クラブ生活協同組合 様
- ・ 北海道ビジネスオートメーション株式会社 様
- ・ 高垣 正計 様

協賛協力をお願い

ボラナビの発刊は企業・グループや個人からの500円からの協賛金でまかっています。1万円協賛いただいた社(方)の名前は誌面で紹介させていただいています。継続的なご協賛をお願いします(数号分まとめての振込みも可能です。政治や宗教団体などは、お断りさせていただく場合があります)。

■郵便局口座番号:02700-1-5671

■北洋銀行口座番号(普):札幌駅北口支店 0118625 (ご連絡先をボラナビにお伝え下さい。)

■北海道銀行口座番号(普):札幌駅北口支店 0816050 (ご連絡先をボラナビにお伝え下さい。)

■加入者名:ボラナビ倶楽部

情報提供をお願い

ボランティア募集やイベント情報をお待ちしています。主旨と内容、日時、場所と交通、連絡先、その他を明記し、郵送・FAXまたはEメールでお送りください(Eメールだと嬉しい!)。掲載料は無料です。9月号に掲載を希望される場合は7月25日までに送り下さい。お便りなどもお待ちしております。

ボラナビ

CLICK!

ホームページアドレス

<http://www.infosnow.ne.jp/volunavi/>

メールアドレス

volunavi@mb.infosnow.ne.jp

月刊 ボラナビ

■発行:NPO法人 ボラナビ倶楽部

〒001-0011 札幌市北区北11条西4丁目1-29

北海道NPOサポートセンター内(南向き)

FAX専用:011-716-2899(電話はかかりません)

■発行日:2001年6月25日

■発行部数:25,000部

■代表:森田麻美子

■印刷所:幡本印刷株式会社